

## 水道事業ガイドラインに基づく業務指標(平成25年度分)

「水道事業ガイドライン」で算出した平成21年度から平成25年度の本市上水道事業の業務指標（P I 指標）は以下のとおりです。

この指標は、全国共通の定量化された数値で、各水道事業体の事業経営状況を客観的に分析でき、事業経営の分析や改善に役立てることができます。

「優位性」  
 ↑高いほど望ましい  
 ↓低いほど望ましい  
 — いずれとも示せない

### 1 【安心】 全ての国民が安心しておいしく飲める水道水の供給

番号	業 務 指 標	単 位	優 位 性	指 標 値					指 標 の 解 説
				21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	
1001	水源利用率	%	—	47.4	46.5	45.3	43.4	42.2	確保している水源水量に対する一日平均配水量の割合を示す。
1002	水源余裕率	%	—	84.0	67.2	45.6	94.7	92.8	一日最大配水量に対して確保している水源水量が、どの程度の余裕があるかを示す。
1003	原水有効利用率	%	↑	91.8	92.5	93.4	95.1	94.9	年間取水量に対する有効に使われた水量の割合を示す。
1004	自己保有水源率	%	↑	90.6	90.6	90.6	90.6	90.6	全水源水量に対する自己所有の水源水量の割合を示す。
1005	取水量1 m <sup>3</sup> 当たり水源保全投資額	円/m <sup>3</sup>	↑	6.61	1.34	0.21	0.25	0.29	水源保全に投資した費用を示す。
1101	原水水質監視度	項目	—	※176	※175	※174	※174	※167	原水について、測定している水質項目数をいう。
1102	水質検査箇所密度	箇所/100km <sup>2</sup>	↑	35.2	36.3	36.3	36.3	36.3	毎日、水質検査をしている給水栓の100 k m <sup>2</sup> 当たりの箇所数。
1103	連続自動水質監視度	台/ (1,000m <sup>3</sup> /日)	—	0.238	0.272	0.372	0.388	0.400	配水管網において、連続して1日24時間水質を計測する装置の一日平均配水量1,000m <sup>3</sup> 当たりの設置数。
1104	水質基準不適合率	%	↓	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	給水栓での全検査回数のうち、水質基準不適合回数の割合をいう。この値は0%が適正である。
1105	カビ臭から見たおいしい水達成率	%	↑	45.0	50.0	45.0	45.0	80.0	給水栓での2種類のカビ臭物質最大濃度の水質基準値に対する割合をいう。水質基準ぎりぎりであると0%、カビ臭物質が含まれないと100%となる。
1106	塩素臭から見たおいしい水達成率	%	↑	25.0	0.0	25.0	0.0	50.0	給水栓で、残留塩素濃度の最大値が0.8mg/ℓのとき0%、0.4mg/ℓのとき100%になる。
1107	総トリハロメタン濃度水質基準比	%	↓	30.0	50.0	50.0	50.0	70.0	給水栓で、水質基準値に対する総トリハロメタン濃度最大値の割合を示す。

注) 1101の監視頻度には、月1回以上測定している項目数を引用することを原則としているが、監視頻度が月1回より少ない項目数を引用する場合には、業務指標値に\*を付ける。

## 1 【安心】 全ての国民が安心しておいしく飲める水道水の供給

番号	業務指標	単位	優位性	指標値					指標の解説
				21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	
1108	有機物（TOC）濃度水質基準比	%	↓	20.0	30.0	33.3	26.7	33.3	給水栓で、水質基準値に対する最大有機物濃度の割合を示す。
1109	農薬濃度水質管理目標比	%	↓	—	—	0.010	0.029	0.021	給水栓で、各農薬の管理目標値に対する農薬最大濃度の割合を元に計算する。
1110	重金属濃度水質基準比	%	↓	8.3	1.7	1.7	0.0	0.0	給水栓で、水質基準に定める6種類の重金属の基準値に対する最大濃度割合の平均値。
1111	無機物質濃度水質基準比	%	↓	27.9	16.9	16.9	22.1	25.4	給水栓で、水質基準に定める6種類の無機物質（ミネラル分）の基準値に対する最大濃度割合の平均値。
1112	有機物質濃度水質基準比	%	↓	10.0	10.0	10.0	5.0	10.0	給水栓で、水質基準に定める4種類の有機物質の基準値に対する最大濃度割合の平均値。
1113	有機塩素化学物質濃度水質基準比	%	↓	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	給水栓で、水質基準に定める9種類の有機塩素化学物質の基準値に対する最大濃度割合の平均値。
1114	消毒副生成物濃度水質基準比	%	↓	6.5	0.0	0.0	2.5	0.0	給水栓で、水質基準に定める5種類の消毒副生成物の基準値に対する最大濃度割合の平均値。
1115	直結給水率	%	↑	97.5	97.1	97.0	97.0	97.0	受水槽を経由せずに直接給水される件数の割合。
1116	活性炭投入率	%	↓	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	水質が悪化したときに用いる、粉末活性炭の年間投入日数の割合。
1117	鉛製給水管率	%	↓	34.8	33.7	25.6	24.6	23.8	鉛製給水管を使用している割合。

## 2 【安定】 いつでもどこでも安定的に生活用水を確保

番号	業務指標	単位	優位性	指標値					指標の解説
				21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	
2001	給水人口一人当たり貯留飲料水量	ℓ/人	↑	217.9	381.7	397.5	401.6	405.7	給水人口1人当たり、常時貯留している水量を示す。災害直後には、1人1日30が必要とされている。
2002	給水人口一人当たりの配水量	ℓ/日/人	↓	397.8	390.9	384.6	372.4	365.5	給水人口1人当たり、1日に配水した量を示す。
2003	浄水予備力確保率	%	—	45.7	40.2	31.3	48.6	48.1	全浄水施設能力に対する予備力の割合。水運用の安定性、柔軟性、危機対応性を示す指標の一つ。
2004	配水池貯留能力	日	↑	0.9	1.2	1.3	1.4	1.4	水道水をためておく配水池の容量が、平均配水量の何日分あるのかを示す。需給調整、突発事故に対応するため、通常0.5日以上は必要とされる。
2005	給水制限数	日	↓	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1年間で何日給水制限したかを示す。
2006	普及率	%	↑	99.8	99.8	99.8	99.9	99.9	給水区域内で水道を使用している人の割合を示す。
2007	配水管延長密度	km/km <sup>2</sup>	↑	11.0	11.0	11.0	11.1	11.6	給水区域面積1km <sup>2</sup> 当たりの配水管延長を示す。給水申込に対する物理的利便性の度合いを示す。
2008	水道メータ密度	個/km	↑	73.6	71.7	71.4	71.4	68.3	配水管1km当たりの水道メーター接続数を示す。配水管の効率性を示す。
2101	経年化浄水施設率	%	↓	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	法定耐用年数を超えた浄水施設能力の割合を示す。この値が大きいかほど古い施設が多いことを示すが、使用の可否を表すものではない。
2102	経年化設備率	%	↓	53.1	61.1	77.4	77.4	75.0	法定耐用年数を超えた電気・機械設備の割合を示す。この値が大きいかほど古い設備が多いことを示すが、使用の可否を表すものではない。

## 2 【安定】 いつでもどこでも安定的に生活用水を確保

番号	業 務 指 標	単 位	優 位 性	指 標 値					指 標 の 解 説
				21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	
2103	経年化管路率	%	↓	9.9	10.2	12.4	12.7	15.1	法定耐用年数を超えた管路延長の割合を示す。この値が大きいかほど古い管路が多いことを示すが、使用の可否を表すものではない。
2104	管路の更新率	%	↑	1.1	0.7	1.0	1.3	1.3	1年間に更新された管路延長の割合を示す。
2105	管路の更生率	%	—	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1年間に更正（古い管の内面を補修すること）された管路延長の割合を示す。
2106	バルブの更新率	%	↑	2.0	3.6	1.5	1.6	2.1	1年間に交換されたバルブ数の割合を示す。
2107	管路の新設率	%	—	0.17	3.10	0.47	0.30	0.17	1年間に新設された管路延長の割合を示す。
2201	水源の水質事故数	件	↓	0	0	0	0	0	1年間の水源の有害物質による水質汚染の回数を示す。この指標は水道事業者の責任ではないが、重要なものである。
2202	幹線管路の事故割合	件/100km	↓	2.98	1.99	0.99	0.99	0.00	1年間の幹線管路100kmあたりの事故件数を示す。管路施設の健全性を示す。
2203	事故時配水量率	%	↑	32.7	33.8	34.7	36.2	37.3	浄水場が24時間全面停止した場合に、1日平均配水量に対して配水できる割合を示す。水道施設の緊急時の融通性を示す。
2204	事故時給水人口率	%	↓	82.0	82.0	81.1	81.0	81.8	浄水場が24時間全面停止した場合に、給水できない人口の割合を示す。水道施設の緊急時の融通性を示す。
2205	給水拠点密度	箇所/100km <sup>2</sup>	↑	12.6	12.1	12.1	12.1	12.1	緊急時に応急給水できる100km <sup>2</sup> あたりの拠点数。
2206	系統間の原水融通率	%	↑	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	他系統からの融通可能な原水水量の割合。水運用の安定性、柔軟性及び危機対応性を示す指標の一つ。
2207	浄水施設耐震率	%	↑	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2	浄水施設のうち、高度な耐震化がなされている施設能力の割合を示す。
2208	ポンプ所耐震施設率	%	↑	30.5	30.9	30.9	30.9	32.4	ポンプ施設のうち、高度な耐震化がなされている施設能力の割合を示す。
2209	配水池耐震施設率	%	↑	10.8	48.4	50.7	50.7	50.7	配水池のうち、高度な耐震化がなされている施設容量の割合を示す。
2210	管路の耐震化率	%	↑	9.4	9.9	10.1	10.7	12.5	管路のうち、耐震性のある材質と継手（管の接続部）により構成された管路延長の割合を示す。
2211	薬品備蓄日数	日	↑	45.1	43.6	47.3	49.1	50.4	浄水場で使う薬品が、1日平均使用量に対して何日分貯蔵してあるかを示す。薬品の劣化がない範囲で余裕を持つことが良い。
2212	燃料備蓄日数	日	↑	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	浄水場で使う自家発電施設の燃料に対する貯蔵日数を示す。燃料の劣化がない範囲で余裕を持つことが良い。
2213	給水車保有度	台/1,000人	↑	0.012	0.012	0.012	0.012	0.012	人口1,000人当たりの給水車保有台数を示す。
2214	可搬ポリタンク・ポリバック保有度	個/1,000人	↑	2.4	2.4	2.5	2.5	2.3	緊急時に使用する人口1,000人当たりの、可搬ポリタンク・ポリバック保有数を示す。
2215	車載用の給水タンク保有度	m <sup>3</sup> /1,000人	↑	0.084	0.084	0.085	0.086	0.086	緊急時に使用する人口1,000人当たりの、給水タンク容量を示す。
2216	自家発電機設備容量率	%	↑	7.6	7.6	7.6	7.6	7.6	自家発電機の容量の、当該水道施設の電力必要量に対する割合を示す。高い方が停電事故に強い。
2217	警報付施設率	%	↑	4.6	6.2	6.2	6.2	6.2	遠隔で施設の異常を検知できる、警報設備がある施設の割合を示す。この値は高い方が異常時の対応がしやすい。
2218	給水装置の凍結発生率	件/1,000件	↓	0.00	0.43	3.48	0.00	0.00	1年間の、給水件数1,000件当たり給水装置の凍結件数を示す。

3 【持続】 いつまでも安心できる水を安定して供給

番号	業 務 指 標	単 位	優 位 性	指 標 値					指 標 の 解 説
				21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	
3001	営業収支比率	%	↑	127.2	126.7	121.4	116.3	113.8	営業費用が営業収益によってどの程度賄われているかを示す。値が100未満の場合、営業損失が生じていることを示す。
3002	経常収支比率	%	↑	113.1	114.3	112.3	108.3	105.7	経常費用が経常収益によってどの程度賄われているかを示す。値が100未満の場合、経常損失が生じていることを示す。
3003	総収支比率	%	↑	113.1	114.3	111.3	108.3	105.6	総費用が総収益によってどの程度賄われているかを示す。値が100未満の場合、健全な経営とはいえない。
3004	累積欠損金比率	%	↓	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	営業活動の結果生じた欠損金が、当該年度で処理できずに後年度に累積したもの。この値は0であることが望ましい。
3005	繰入金比率（収益的収入分）	%	↓	0.0	0.3	0.5	0.5	0.5	収益的収入に対する繰入金の割合を示す。事業の健全性、効率性を示す指標の一つ。
3006	繰入金比率（資本的収入分）	%	↓	0.0	0.3	0.9	1.5	1.8	資本的収入に対する繰入金の割合を示す。事業の健全性、効率性を示す指標の一つ。
3007	職員一人当たり給水収益	千円/人	↑	44,729	43,966	42,066	40,973	39,850	損益勘定職員1人あたりの生産性について、給水収益を基準として把握するための指標。
3008	給水収益に対する職員給与費の割合	%	↓	23.4	23.9	24.1	24.6	24.7	事業の効率性を分析するための指標の一つ。
3009	給水収益に対する企業債利息の割合	%	↓	9.2	8.9	7.7	7.6	7.6	事業の効率性及び財務安定性を分析するための指標の一つ。
3010	給水収益に対する減価償却費の割合	%	↓	36.9	37.6	41.5	42.7	44.2	事業の効率性を分析するための指標の一つ。
3011	給水収益に対する企業債償還金の割合	%	↓	19.4	20.3	20.5	19.4	20.0	企業債償還金（元金）が経営に与える影響を分析するための指標の一つ。
3012	給水収益に対する企業債残高の割合	%	↓	356.1	362.0	371.7	373.1	367.7	企業債残高の規模と経営に与える影響を分析するための指標の一つ。
3013	料金回収率（給水にかかる費用のうち水道料金で回収する割合）	%	↑	104.2	105.3	100.8	95.4	94.0	給水原価の供給単価に対する割合を示す。100%未満の場合給水に係る費用が料金以外の収入で賄われていることを意味する。
3014	供給単価	円/m <sup>3</sup>	↑	132.6	134.2	133.6	133.7	133.7	有収水量（年間の料金徴収の対象となった水量）1m <sup>3</sup> 当たりの、販売価格を示す。
3015	給水原価	円/m <sup>3</sup>	↓	127.2	127.5	132.6	140.1	142.3	有収水量（年間の料金徴収の対象となった水量）1m <sup>3</sup> 当たりの、生産原価を示す。
3016	1箇月当たり家庭用料金（10m <sup>3</sup> ）	円	↓	945	945	945	945	945	標準的な家庭における、1ヶ月の水使用量（10m <sup>3</sup> ）に対する消費税抜きの料金を示す。
3017	1箇月当たり家庭用料金（20m <sup>3</sup> ）	円	↓	2,415	2,415	2,415	2,415	2,415	標準的な家庭における、1ヶ月の水使用量（20m <sup>3</sup> ）に対する消費税抜きの料金を示す。
3018	有収率	%	↑	90.6	92.1	93.4	95.1	95.2	1年間の給水量（配水量）に対する有収水量の割合を示す。給水される水量がどの程度収益につながっているかを示す指標。
3019	施設利用率	%	↑	47.4	46.5	45.3	43.4	42.2	水道施設の経済性を総合的に判断する指標の一つ。
3020	施設最大稼働率	%	—	54.3	59.8	68.7	51.4	51.9	水道事業の施設効率を判断する指標の一つ。
3021	負荷率	%	↑	87.2	77.8	66.0	84.5	81.3	水道事業の施設効率を判断する指標の一つ。
3022	流動比率	%	↑	266.1	293.7	214.2	315.9	177.8	短期債務に対する支払能力を表し、100%を下回れば不良債務が発生していることを示す。この値は高いほうが安全性が高い。
3023	自己資本構成比率	%	↑	66.6	67.1	67.4	68.7	69.8	総資本に占める自己資本の割合を示す。財務の健全性を示す指標の一つ。この値は高いほうが財務的に安全である。

3 【持続】 いつまでも安心できる水を安定して供給

番号	業 務 指 標	単 位	優 位 性	指 標 値					指 標 の 解 説
				21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	
3024	固定比率	%	↓	144.8	141.3	145.8	142.6	141.9	固定資産の取得が、自己資本の範囲内に収まっているかを判断する指標。一般的に100%以下であれば、財務面で安定的。
3025	企業債償還元金対減価償却費比率	%	↓	52.7	53.9	49.4	45.4	45.2	投下資本の回収と再投資のバランスを見る指標。100%を超えると再投資にあたり外部資金に頼ることになるため、100%以下が財務的に安全である。
3026	固定資産回転率	回	↑	0.10	0.10	0.09	0.09	0.09	期間中に固定資産の何倍の営業収益があったかを示す。
3027	固定資産使用効率	m <sup>3</sup> /10,000円	↑	7.5	7.1	6.7	6.5	6.2	有形固定資産に対する給水量の割合を示す。この値が大きいほど施設が効率的であることを意味する。
3101	職員資格取得度	件/人	↑	0.46	1.22	1.23	1.33	1.43	職員が1人当たり持っている、水道事業に必要とされる法定資格の件数を示す。
3102	民間資格取得度	件/人	↑	—	—	—	—	—	職員が1人当たり持っている、水道事業に必要とされる民間資格の件数を示す。
3103	外部研修時間	時間	↑	3.2	2.1	2.4	5.4	4.6	職員1人当たりの、外部研修時間数を示す。
3104	内部研修時間	時間	↑	1.3	3.5	4.6	0.8	0.9	職員1人当たりの、水道事業が主催した内部研修時間数を示す。
3105	技術職員率	%	—	61.5	61.0	59.0	61.9	59.5	技術職員とは、水道施設の物理的維持管理、施設計画及び建設に携わる職員をいう。
3106	水道業務経験年数度	年/人	—	8.00	6.24	6.85	6.86	7.55	職員が平均何年水道業務に携わっているかを示す。この指標は職員の習熟度と関係が深い。
3107	技術開発職員率	%	—	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	水道技術の開発に携わる職員の数を示す。
3108	技術開発費率	%	—	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	水道技術の開発に係わる費用の額を示す。
3109	職員一人当たり配水量	m <sup>3</sup> /人	↑	314,000	294,000	302,000	268,000	261,000	職員1人当たりの年間配水量を示す。水道事業の効率性を示す指標の一つ。
3110	職員一人当たりメータ数	個/人	↑	826.2	792.6	834.5	777.8	778.3	職員1人当たりメーター数を示す。水道事業の効率性を示す指標の一つ。
3111	公傷率	%	↓	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	公傷（仕事をする上でのケガ、病気）の割合を示す。
3112	直接飲用率	%	↑	—	—	—	—	—	消費者の何%が直接水道水を飲用しているかを示す。通常はアンケートにより調査を行う。
3201	水道事業に係る情報の提供度	部/件	↑	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	水道事業が広報を目的として配布したパンフレット、広報紙等の発行割合を示す。
3202	モニタ割合	人/1,000人	↑	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1	水道事業に関するモニタの割合を示す。
3203	アンケート情報収集割合	人/1,000人	↑	—	—	—	—	—	アンケート実施による回答割合を示す。
3204	水道施設見学者割合	人/1,000人	↑	14.9	14.7	14.3	12.7	16.4	1年間の水道施設を見学した者の割合を示す。
3205	水道サービスに対する苦情割合	件/1,000件	↓	17.83	5.11	4.58	6.40	5.83	水道事業に寄せられた、全ての苦情件数の割合を示す。
3206	水質に対する苦情割合	件/1,000件	↓	0.50	0.26	0.20	0.23	0.13	水道事業に寄せられた、水質に関する苦情件数の割合を示す。
3207	水道料金に対する苦情割合	件/1,000件	↓	2.433	0.494	0.100	0.033	0.398	水道事業に寄せられた、水道料金に関する苦情件数の割合を示す。

### 3 【持続】 いつまでも安心できる水を安定して供給

番号	業務指標	単位	優位性	指標値					指標の解説
				21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	
3208	監査請求数	件	↓	0	0	0	0	0	1年間の監査請求数で法令に基づくものの件数を示す。
3209	情報開示請求数	件	—	4	47	13	15	4	1年間の情報開示請求数で法令に基づくものの件数を示す。
3210	職員一人当たり受付件数	件/人	↑	139.0	131.7	142.6	133.5	143.1	職員1人当たりの受付（水道事業に関する全ての手続き）数を示す。

### 4 【環境】 環境保全への貢献

番号	業務指標	単位	優位性	指標値					指標の解説
				21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	
4001	配水量1 m <sup>3</sup> 当たり電力消費量	kWh/m <sup>3</sup>	↓	0.53	0.52	0.52	0.53	0.53	取水から配水までに要した全ての電力消費量を示す。多くは水を送るためのエネルギーで、地理的条件に左右される。
4002	配水量1 m <sup>3</sup> 当たり消費エネルギー	MJ/m <sup>3</sup>	↓	2.00	1.99	1.98	2.02	2.07	取水から配水までに要した全ての消費エネルギー量を示す。多くは水を送るためのエネルギーで、地理的条件に左右される。
4003	再生可能エネルギー利用率	%	↑	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	再生可能エネルギー（太陽光発電、小水力発電、風力発電等）の、全消費エネルギー量に対する割合を示す。
4004	浄水発生土の有効利用率	%	↑	0.0	0.0	0.0	31.1	22.4	浄水処理過程における発生土の有効利用率を表す。環境保全に関する取組度合いを示す指標の一つ。
4005	建設副産物のリサイクル率	%	↑	18.5	29.5	30.3	38.0	43.8	水道工事において発生する建設副産物の有効利用率を示す。
4006	配水量1 m <sup>3</sup> 当たり二酸化炭素(CO2)排出量	g・CO2/m <sup>3</sup>	↓	202.4	200.8	200.3	204.2	209.1	温室効果ガス排出量の抑制による、環境対策への取組み度合いを示す。
4101	地下水率	%	↓	2.2	2.6	2.6	2.7	2.7	地下水はコストも安く安定しているが、過剰揚水は地盤沈下に繋がるため、認可範囲内で利用する必要がある。

### 5 【管理】 水道システムの適正な実行・業務運営及び維持管理

番号	業務指標	単位	優位性	指標値					指標の解説
				21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	
5001	給水圧不適正率	%	↓	—	—	—	—	—	給水圧が適正範囲内にコントロールできなかった測定地点と日数の割合を示す。
5002	配水池清掃実施率	%	↑	180.5	29.9	7.6	236.2	335.2	最近5年間に清掃した配水池の容量を示す。5年で配水池を一巡することを目標とする。
5003	年間ポンプ平均稼働率	%	↓	11.6	14.3	14.3	17.1	7.9	1年間のポンプの稼働状況を示す。ポンプ施設の余裕度を測定する指標である。
5004	検針誤り割合	件/1,000件	↓	0.08	0.02	0.09	0.07	0.04	検針誤りとは水道メーターの読み違い等、検針に関する一切の誤りをいう。
5005	料金請求誤り割合	件/1,000件	↓	0.15	0.13	0.30	0.26	0.19	料金請求誤りとは、請求額、請求先の誤り等、料金請求に関する一切の誤りをいう。
5006	料金未納率	%	↓	18.5	18.6	19.5	18.6	18.6	年度末における水道料金の未納割合をいう。

5 【管理】 水道システムの適正な実行・業務運営及び維持管理

番号	業務指標	単位	優位性	指標値					指標の解説
				21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	
5007	給水停止割合	件/1,000件	↓	3.1	3.8	5.5	5.8	4.0	水道料金の未納により給水件数1,000件当たりで給水停止をした割合を示す。
5008	検針委託率	%	↑	101.6	93.4	102.3	102.5	99.7	水道メーターの検針業務を委託した割合を示す。
5009	浄水場第三者委託率	%	—	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	第三者委託とは、浄水場の運転管理等の技術的業務を他の水道事業者等に委託すること。
5101	浄水場事故割合	10年間の件数/箇所	↓	0.17	0.14	0.14	0.14	0.14	過去10年間の浄水場事故件数。
5102	ダクタイル鋳鉄管・鋼管率	%	↑	81.0	80.7	81.3	82.0	83.2	管路の母材の強度に視点をあてた指標で、維持管理上の容易性を示す。
5103	管路の事故割合	件/100km	↓	4.0	1.2	1.6	2.0	0.8	管路の年間事故件数を、管路延長100km当りに換算したもの。
5104	鉄製管路の事故割合	件/100km	↓	2.4	0.5	0.5	0.9	0.4	鉄製管路の年間事故件数を、鉄製管路延長100km当りに換算したもの。
5105	非鉄製管路の事故割合	件/100km	↓	14.5	5.9	8.7	8.9	3.2	非鉄製管路の年間事故件数を、非鉄製管路延長100km当りに換算したもの。
5106	給水管の事故割合	件/1,000件	↓	1.7	1.1	0.9	0.6	3.4	給水件数1,000件当たりの、給水管の年間事故件数を示す。
5107	漏水率	%	↓	6.9	5.0	4.2	2.5	2.4	年間漏水量の年間総配水量に対する割合を示す。
5108	給水件数当たり漏水量	m <sup>3</sup> /年/件	↓	28.4	20.0	16.6	9.3	8.6	給水件数1件当たりの、年間漏水量を示す。
5109	断水・濁水時間	時間	↓	2.5	0.5	1.3	0.2	2.9	給水人口1人当たりの年間断水・濁水時間を示す。
5110	設備点検実施率	%	↑	1,340.5	1,340.5	1,340.5	1,340.5	1,471.1	電気機械等の法定点検回数に対する点検回数の割合を示す。この指標は100%以上でなければならない。
5111	管路点検率	%	↑	76.4	51.0	73.7	60.3	62.8	管路に対する年間の点検率であり、管路の健全性確保に対する執行度合いを示す。
5112	バルブ設置密度	基/km	↑	17.1	17.1	17.2	17.3	16.8	配水操作の柔軟性や管路の維持管理の容易性を示す。
5113	消火栓点検率	%	↑	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	年間で点検した消火栓の割合を示す。消防水利機能の健全性確保に対する執行度合いを示す。
5114	消火栓設置密度	基/km	↑	3.6	3.7	3.6	3.6	3.5	配水管延長1kmに対する消火栓の設置数を示す。消防水利のための指標である。
5115	貯水槽水道指導率	%	↑	—	—	—	—	—	貯水槽水道に対する調査・指導の割合を示す。

6 【国際】 我が国の経験の海外移転による国際貢献

番号	業務指標	単位	優位性	指標値					指標の解説
				21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	
6001	国際技術等協力度	人・週	↑	0	0	0	0	0	海外に水道事業に関連する業務のため、派遣された年間の人数・滞在週を示す。
6101	国際交流数	件	↑	1	1	0	0	0	1年間に公務で海外に出かけた職員、来日した人の件数を示す。